

TJB 学生編集部特集 : AsOBiNet

自分の世界を広げる場 -AsOBiNet-

汐崎 七海 (筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程 2年)

皆さんは AsOBiNet (Asia-Oceania-Biology student-Network) をご存知ですか? このプログラムは、2006年に筑波大学生命環境科学研究科独自の、生物学を学ぶ学生のための国際的なネットワークとして立ち上げられました。このプログラムではこれまでに、筑波大学以外に中国、タイ、オーストラリア、ベトナムの大学の生物系教員及び学生が日本や海外において学術的、文化的交流をしてきました。私は、このプログラムにこれまで3回参加しました。どの回でもいろいろな出会いや経験を体験し、自分自身のことや研究、将来について考えるよいきっかけとなりました。

このプログラムの特徴は、同じ生物学という分野で研究している海外の学生と交流できることにあります。私は海外に住んだ経験もありませんし、海外の友達もいませんでした。そのため最初は、International members とコミュニケーションを取るのに苦労もしました。言葉の壁はもちろん、文化的背景も異なるのでお互い共有できる部分が少なかつたからです。しかしこのプログラムでは、1~2週間でお互いの研究についてのディスカッションや観光を通して、とても密な時間を過ごします。同じ生物学の分野を研究していることもあり、毎日の研究生活や将来のことなどについて、たくさん話すことが出来ました。そこから各国の科学研究の実情を垣間見ることが出来て、興味深かったです。特に、日本とタイ、ベトナムでは科学に求められる役割が異なる部分が大きく、そのため研究へのアプローチの仕方も異なっていた

点が印象深かったです。また、アカデミックな内容だけでなく、プライベートな話題で盛り上がるなど、楽しい思い出がたくさん出来ました。

第3回目のプログラムはタイとベトナムで行われました。どちらも私にとっては初めて訪れる国でした。そこでは観光客のよく訪れる、いわゆる名所もいくつか行きました。しかしそれだけでなく、International members のコーディネートによって、観光ではなかなか行けない様なところにも足を運びました。例えば、タイでは生態系を利用した国立汚水処理施設や大学の試験農場、ベトナムでは catfish farm や巨大なマングローブ林などを訪れました。また、現地の人たちの生活風景などもよく目にしました。このようにして、国やそこに住む人々の生の姿を見ることができたのは貴重な経験でした。

大学院にこの様な、海外の同じ分野を研究する学生と気負いなく交流する場を提供するプログラムがあるのは珍しいと思います。この AsOBiNet はまだ生まれたてのネットワークです。これからさらに筑波大学内でも海外でもこのネットワークが広がることを期待しています。興味をもたれた方はウェブサイト (<http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~asobiol/>) もありますので、是非ご覧になってください。

Communicated by Shinobu Satoh, Received July 7, 2008.

Revised version received October 14, 2008.